

Chemical Bonds 支部／教育・普及部門だより

北海道支部発

2024 体験入学

8月1日、2日の2日間、北海道支部主催「化学系大学への体験入学」を北海道大学にて開催しました。コロナ禍の間の開催中止などを経て、昨年度より北海道大学キャンパスにて対面で開催しています。参加者は高校生67名、高校教員1名の68名でした。北海道は広いので、前泊して参加した学生も多数いました。1日目の特別講義は北海道大学電子科学研究所の長島一樹教授による「情報の宝庫である匂いのデータ化と利活用」と同工学研究院の松本謙一郎教授による「微生物の中にプラスチック工場を作る」で、活発な質疑応答が行われました。2日目の実験体験では参加者はキャンパス内の25の研究室に分散し、事前に申し込んだテーマの実験や計算機シミュレーションを行いました。スタッフや大学生とのやりとりも含め大学で学ぶことへの意欲関心が高まった様子がうかがえました。事後アンケートの結果では、特別講義2件については2件とも「大変興味がわいた」、「大学の研究についてどういうものか初めてわかった」、「高校で学習したコンテンツの延長線上に最先端の科学があるとわかりとても楽しかった」などの感想が多く好評でした。実験体験については、「実験のことだけでなく大学生活についても情報を得ることができた」、「大学院生と先生の距離感が素敵だなと感じた」などの感想があり、実際に研究室に行って体験しなければ得ら



れない情報が得られたことがうかがえます。化学を通してこうしたコミュニケーションを図ることができた点から、高校生にとって大変有意義な機会となったと考えております。

(島田敏宏 北海道大学 教授)

北海道支部発

函館工業高等専門学校 —高専体験 DAY—

函館工業高等専門学校では、令和6年8月3日(土)および8月4日(日)の2日間にわたり日本化学会北海道支部の助成を得て「高専体験 DAY」を開催しました。このイベントは、中学生に本校での専門学科の体験学習を通して、本校への理解をより深めていただくとともに化学の楽しさを理解してもらうことを目的としています。

当日は、9:00に受付後、全体ガイダンスののち、各学科にわかれ実験1および実験2を実施、午後は物質環境工学科の見学を行いました。

物質環境工学科には、3日(土)23名、4日(日)23名の計46名の参加がありました。1日で実験1および2両方の実験を行い、実験1では「植物の色素の色を分離・観察してみよう」、実験2では「豚レバーのDNAを抽出しよう」を実施しました。両実験ともに食品という身近なものを使用した実験でしたので、化学実験に対して大いに興味を持ってくれたようです。また、高専の現役学生が実験を



手伝ってくれたこともあり、現役学生に中学生から、高専での生活、勉強面などについて質問があったようで会話ははずんでいました。現役学生の声の聞ける良い機会でもあったかと思います。

午後の見学では、実験室見学・研究室見学、高専が所有する設備や分析機器などを見て回りました。今回のイベントがきっかけとなり、参加してくれた中学生の皆さんが化学の道を志してもらえればと感じている次第です。

(宇月原貴光 函館工業高等専門学校物質環境工学科 教授)

中国四国支部発

おもしろワクワク化学の世界'24 鳥取化学展

中国四国支部では、次世代を担う青少年に化学や実験に対する好奇心や理解を深めてもらうことを目的として、1993年より毎年、中国四国の1都市で徳山科学技術振興財団からの助成を得て化学展を開催しています。今回は8月23~25日に、鳥取駅前・丸由百貨店で「おもしろワクワク化学の世界'24 鳥取化学展」と題して開催しました。鳥取大学の教員と学生に加え、株式会社トクヤマ、すいそ学びうむ(とっとり水素学習館)、鳥取県庁からの参加も得て、「水から水素、水素から電気を作ってみよう」「身近なもので電池を作ってみよう」「カルメラ焼きを作ってみよう」「砂がふわふわ!? 固気流動層を体験しよう」「ルミノール反応で色々なものを光らせよう」「紫外線で浮かび上がる絵をかいてみよう」など15ブース(うち2ブースでは前半と後半でテーマを変え、17テーマ)を出展しました。

当地の高校はもう二学期に入った金曜日、やや少なめの



参加者から始まりましたが、初日の様子がNHKテレビと日本海新聞で報じられると、夏休み最後の週末であった残り2日には参加者が詰めかけ、一時は整理券で入場制限も行き、計899名にご参加いただきました。多くは小学生とその家族でしたが、大人や大学生・高校生も実験を楽しんでおり、化学グッズが当たるスタンプラリーを実施して多くのブースを訪れるよう誘導したこともあり、数時間以上かけて、または連日訪れて、全ブースを回る参加者が目立ちました。

(片田直伸 鳥取大学工学部 教授)